

日本語の文章におけるの副詞
「とりあえず」と「いちおう」の使い分けの分析
(意味論からの一考察)

セラシンマグダレナ

0542032



マラナタキリスト大学学部
日本文学科
バンドン
2009

1. 序論

日本語では「Adverbia」とは「副詞」である。副詞とは「自立語であり、活用がなく、用言（動詞、形容詞、形容動詞）を修飾する品詞である」。 (Iwabuchi, 1994:144)

Isao dkk. (2000: 378)によると、“副詞は陳述副詞、程度副詞、様態副詞に分けられる”。様態の副詞には、あらゆる種類のものがある。そのなかに「とりあえず」と「いちおう」がある。(Takashi, 1999: 41-47)

上に書いてあった副詞の例で、「とりあえず」と「いちおう」はよく似ている語であり、類義語とよく呼ばれる。

“類義語というのは意味が同じか、またはよく似ている単語のことである。” Tokugawa (1972: 3). その二つの類義語が文章の中でおたがいに置きかえることができるかどうかをしるために、置き換え技術を使うことにする。

Hirose (1994: 82-83)によると、「とりあえず」は不十分ではあるけれど、時間がないので仮にそうしておく。細かいことにとらわれず今必要なことだけを優先しておくというとき、ほかにやることはあるのだけれど。今やれること。すぐできることを先にしておくという意味のとき使います。一方、「いちおう」は念のため、用心のためというとき使います。そして、十分ではないけれど表面上の最低基準だけは満たす、つまり、ひととおりなんとかする、なるというとき使います。

2. 本論

「とりあえず」と「いちおう」は意味が同じであるが、ニュアンスが異なるのである。それらの異同は以下の例で見ることができる。

- 1.a (35) 今回は最近の私の文章を整理して、読者に示すために、とりあえずこのところ何か月分かに当たる年表を入れることにした。
(KNI 1991:180)

(1.a) の文では「とりあえず」はあとでもっと完全にすけれど、急な措置として臨時的にする。話し手は注意を引くわけで、書いている文書に対して、読者に何ヶ月の年表を示す。

この文において「とりあえず」は「いちおう」に置き換えることはできないのである。つまり、以下の文 1.b は非文法的である。

- 1.b X 今回は最近の私の文章を整理して、読者に示すために、いちおうこのところ何か月分かに当たる年表を入れることにした。

上の文では、“何か月分かに当たる年表を入れることにした” には、最低限の規準を満たしているのが必然的である。なぜならば「いちおう」はあとでもっと完全にすけれど、急な措置として臨時的にすると人間の意図的行為について用いられる文では「とりあえず」に代わることができない。

- 2.a (40) 私にできるかどうか分かりませんが、とりあえずやってみましょう。(NHHS 2002: 27)

上の文の「とりあえず」は話してが限られた時間の中で、ある仕事をするかしないかを選択すべきである。話し手も臨時的にその仕事をす。したがって、この文では、話し手の「仕方がないなあ」という気持ちが含まれている。

この「とりあえず」は「いちおう」の付いた、以下の文 (2. b) のように置き換えることができる。

2.b O 私にできるかどうか分かりませんが、いちおうやってみましよう。

本例文には謙遜する気持ちを含めている。それらは急場の措置として、という意味では等しい急場にある。

3. 結論

「とりあえず」には：

- a. あとでもっと完全にすけれど、急な措置として臨時的にする。
- b. 人間の意図的行為について用いられる。
- c. 拒否する気持ちもある。

「いちおう」には：

- a. 最低限の規準を満たしている。
- b. 謙遜する気持ちを含めている。

「とりあえず」と「いちおう」には：

この二つの副詞はあとでもっと完全にしないで、臨時的な措置を表す場合に「とりあえず」および「いちおう」は互いに置き換えることはできる。

また、これらは述語を修飾する副詞がある。

DAFTAR ISI

PERSEMBAHAN	i
KATA PENGANTAR	iii
DAFTAR ISI	vi
BAB I PENDAHULUAN	
1.1 Latar Belakang Masalah.....	1
1.2 Rumusan Masalah.....	7
1.3 Tujuan Penelitian.....	8
1.4 Metode Penelitian dan Teknik Kajian.....	8
1.4.1 Metode Penelitian.....	8
1.4.2 Teknik Kajian.....	9
1.5 Organisasi Penulisan.....	10
BAB II KAJIAN TEORI	
2.1 Semantik.....	12
2.1.1 Makna leksikal.....	13
2.1.2 Makna gramatikal.....	14
2.2 Sinonim.....	15
2.3 Adverbia (<i>Fukushi</i>).....	19
2.4 Pengertian <i>Toriaezu</i> dan <i>Ichiou</i>	25
2.4.1 <i>Toriaezu</i>	24
2.4.2 <i>Ichiou</i>	27

BAB III ANALISIS PENGGUNAAN <i>FUKUSHI TORIAEZU</i> DAN <i>ICHIOU</i> DALAM KALIMAT BAHASA JEPANG	
3.1 <i>Toriaezu</i>	32
3.2 <i>Ichiou</i>	45
3.3 Rangkuman Analisis.....	57
BAB IV KESIMPULAN	59
SINOPSIS	viii
DAFTAR PUSTAKA	xiii
LAMPIRAN 1 DATA	xv
LAMPIRAN 2 KLASIFIKASI DATA	xxvii
DAFTAR RIWAYAT HIDUP	xxx